

福井県理学療法士(協)会
代議員立候補者

定 数 : 4 名

立候補者数 : 3 名



氏名 四谷 昌嗣

都道府県士会 福井県

年齢 52

勤務先名称 公立丹南病院

協会・士会役員歴

平成14年～15年度	県士会学術部長
平成16年～19年度	県士会学術局長
平成20年～27年度	県士会副会長
平成28年～	県士会会長
平成25年～29年度	代議員

立候補の趣旨

県士会長として1期2年が経過しました。理学療法を取り巻く環境は着実に変化しています。しかしながら県士会や現場の会員は目まぐるしい変化に十分な対応ができず、会員数の増加により様々な情報の周知を徹底することさえ困難な状況になっています。協会と県士会に乖離が生じないよう、会員の意見を届け議論する人員が必要と考え代議員に立候補いたします。よろしく願いいたします。



氏名 五十嵐 圭介

都道府県士会 福井県

年齢 51

勤務先名称 宮崎病院

協会・士会役員歴

・協会役員歴	
平成26年～29年	日本理学療法士協会 代議員
・県士会役員歴	
平成6年～平成11年度	福井県理学療法士会 社会局 健康増進部 部員
平成12年～平成13年度	福井県理学療法士会 社会局 保健福祉研修部 部員
平成14年～平成15年度	福井県理学療法士会 社会局 担当理事
平成16年～平成25年度	福井県理学療法士会 社会局 局長
平成26年～現在	福井県理学療法士会 副会長

立候補の趣旨

今後の社会保障の継続のためには、地域包括ケアシステムの構築が不可欠であるとの考えが示され、その構築に向けた制度の方針を示す上で平成30年の改定は大きな意味を含むといわれています。

又、今後の社会保障のあり方に関して、政府は地域共生社会の実現の重要性を訴えています。そのような大きく変わろうとしている社会保障のあり方の中で、リハビリ専門職の活用の重要性が大きくなってきており、地域での要望も大きくなってきています。

私は、県士会活動や代議員活動の経験を活かし、地域や県士会会員が求められている声を協会に届け、又、国や協会が期待している理学療法士の活動を県士会に届ける事で、地域に貢献できる理学療法士の活動の実現に繋がるのではないかと考えています。地域で貢献できる理学療法士の活動の実現に向け、微力ながら尽力したいと思ひ代議員に立候補いたします。よろしく願い申し上げます。



氏名 小澤 純一

都道府県士会 福井県

年齢 49

勤務先名称 福井県立病院

協会・士会役員歴

【士会役員歴】

福井県理学療法士会 社会局担当理事（平成17・18年）
福井県理学療法士会 財務局局長（平成20・21年）
福井県理学療法士会 法人化準備委員会 委員長（平成20・21年）
一般社団法人福井県理学療法士会 事務局長（平成22～25年）
一般社団法人福井県理学療法士会 公益事業推進委員会 委員長（平成22年～25）
公益社団法人福井県理学療法士会 副会長（平成26～29年）
公益社団法人福井県理学療法士会 組織検討委員会 委員長（平成26・27年）
公益社団法人福井県理学療法士会 専門領域連携協議会（平成28・29年）

【協会活動歴】

日本理学療法士協会 組織率向上特別委員会委員（平成25・26年）
日本理学療法士協会 代議員（平成28・29年）

立候補の趣旨

現在、医療や福祉の供給体制は、少子高齢を背景に大きな見直しが迫られています。この大きな変化の時代に、理学療法士自身も、その質やモラルの低下が指摘されています。時代のニーズにあった理学療法士の質の向上のために、専門・認定理学療法士制度を柱とした生涯教育を拡充し、組織として学術的そして職能的なレベルの向上を目指す必要があります。しかし、各士会単位での方向性や協会や専門領域団体との連携のあり方はみえてきていません。日本理学療法士協会や日本理学療法士学会だけでなく各都道府県での生涯教育支援体制の確立や、専門領域ごとの活動の組織化が重要と考えます。また、今後も増加する理学療法士の職域拡大のためには、各地域にあるニーズに対応できる協会と士会の連携が求められています。きめ細かくスピード感をもって、若い世代が幅広い分野で活躍できる未来の礎を築くため、代議員として立候補させて頂きます。